

## 研究紀要第32集 投稿・執筆要領

担当幹事 立松英子

障害児基礎教育研究会では、年に1回研究紀要を配布し、実践研究の様子を内外にご紹介しています。完成した研究紀要は、教材工夫展当日に配布されます。今年度の教材工夫展は、11月2日(日)に琉球大学で開催されます。つきましては、研究紀要の原稿を募集いたします。

事例に焦点を当てた「書式1」と、教材教具に焦点を当てた「書式2」をご用意しました。しかし、これに拘らず、「論考」や「コラム」でもかまいませんので、意欲的な投稿を期待いたします。

### 記

#### 1 研究紀要作成の目的

本研究会の活動や成果を多くの人に知っていただき、基礎教育の発展に資する。

#### 2 内容

教材教具を使った実践やそれに関連する論考、教材製作のアイデアなどを公開する。

#### 3 初稿締め切り **令和7年9月15日(水曜日)**

\* 初稿をいただいた後1-2週間かけて校正・編集を行います。冊子全体の統一を図るため、主旨や内容を変えないようにしつつ手を入れることをご了解ください。最終原稿は必ずご確認いただきます。教材教具の撮影は、早めに行うことをお勧めいたします。最終原稿の出稿から出来上がりまでも時間を要しますので、締切は厳守してください。

\* 原稿は以下にご投稿ください。受け取り側PCの環境により、フォントが違うものになったり、図の位置がずれることがありますので、できればPDFも一緒にご投函ください。ファイルのタイトルは、ご自分の名前\_書式番号でお願いします(例:水口花子\_書式1)。

**原稿ができたなら、こちらのフォームよりご投稿ください。**

<https://forms.gle/ykMG93uhJRKFE7Lz9>

書き方に迷う場合は、過去の研究紀要をご参照ください。公開までに少なくとも1回以上は原稿のやりとりさせていただきます。そのため、メールアドレスは携帯ではなくWord原稿が添付できるパソコンのアドレスをご指定ください。投稿の意思表示やお問い合わせなどは、ホームページ下の「お問い合わせ」からお願いします(チェックボックスは「その他」を選んでください)。

#### 4 発行日

令和7年11月2日(日)。教材工夫展当日、参加者全員に無料配布いたします。参加されなかった会員には、その後、幹事より郵送いたします。無料配布(1冊)以上のご要望については、1冊1000円(送料430円)を申し受けます。

## 5 原稿の作成方法

MS-Word で作成してください。その他のアプリケーションには対応できません。

### 執筆要領

\*余白は上 30mm、下 30mm、右 20mm、左 30mm、文字数・行数は、40 文字×37 行、文字は 10.5p をお願いします。標準的な書式は、「書式 1」「書式 2」を参考にしてください。  
\*同じものを指す言葉（例：シート・ボード・パネル・板・盤／ペグさし・棒さし／教師・教員・指導者・支援者/子ども・児童・対象児など）は、原稿内で統一してください。読者は保護者も含め、教育・福祉・医療等多分野に渡るので、学習を提供する側は、「支援者」としてください。  
\*対象となる本人もしくは保護者の了解を得て、その旨を文中に記載してください。また、個人の特定につながる情報はお控えください（F 県 S 市→A 県 B 市、N くん→A さん、など）。

### 書式1: 事例に焦点を当てて(複数の教材を使って事例の成長を追った場合など)

○○○○○○(12-14 ポイント)

— \* \* \* \* \* — (11-12 ポイント)

子どもの様子や取組の状況を、第三者がわかるように、あるいは真似できるように、具体的にお伝えください。

誰にでも当てはまるテーマは避け、対象や学習の特徴がわかるようなテーマにしてください。

不適切な例: 「Aさんへの取り組み」、適切な例: 「Aさんが自ら物に手を伸ばすまで」

報告者:所属(職名) ○○○学校(教諭)

氏名 ○○ ○○

【子どもの様子】(例) ○さん(小5 女) \*□で囲む。

基礎情報: 脳性麻痺による四肢体幹機能障害。抗てんかん薬服用。

食事: 鼻腔流動食1日3回。経口摂食の訓練を家庭で1日2回行っている。

動き: 背臥位で足をつっぱって移動する。足の裏や顔に触れられることを嫌がる。

よく動く右手を顔にもっていき、チューブを抜いてしまうことがある。

視覚: 強い光刺激にも反応があらわれにくい。

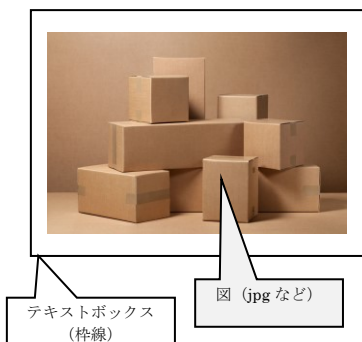
聴覚: 音の刺激には敏感であり、眼球を動かしたり、音のする方に顔を向けたりする。

1 事例の背景 テーマ設定に至った動機や背景を書く。

2 これまでの様子 取り組み以前の課題など。


3 学習(支援)の経過 実施した場所や時間、回数、教材の写真などを含める。

\*写真は文中に貼り付けてください。jpg で用意する必要があるときは、別途ご連絡致します。



<文中で図の位置が崩れないようにするための推奨設定>

① 「挿入」→「テキストボックス」→「縦書きテキストボックスの描画」

②文中の入れたい場所に枠を作る→テキストボックスの枠を選択し、コマンド「テキストボックス」→「文字列の折り返し」→「四角形」を選ぶ(周囲の文字が図の外側に押し出されます)。

③枠内にカーソルを置き、「挿入」→「画像」→「画像 (P) …」を選択しコンピュータ内の画像を選ぶ。「テキストボックス」の枠線は残してください。

4 結果 事実をできるだけ具体的に書く。教材への取り組み方、対人行動や日常行動の変化、保護者や同僚の評価などを含める。

5 考察とまとめ 「結果」で書いた事実に基づき、気づきや解釈、強調点を書く。

6 文献 引用文献や参考文献は必ず書く。

### <文献の書き方>

①著書の場合:著者名(発行年):引用部分の表題、In:本の編者、書名、発行者、pp 最初のページ-最後のページ

②雑誌論文の場合:著者名(発行年):表題、雑誌名、巻、号、最初のページ-最後のページ

③コンマ(,)やピリオド(.)、コロン(:)、カッコの後には必ず半角スペースを入れる。

種類	書き方の例
著書全体	木下康仁(2017): グラウンデッドセオリー・アプローチの実践 質的研究への誘い. 弘文堂.
分担執筆部分	無藤隆(2003): 教育心理学の研究論文・著作物による貢献. In: 日本教育心理学会編 教育心理学ハンドブック. 有斐閣, 第3章, 第1節, pp. 29-33. * 著書の場合、複数ページであれば pp. をつける
雑誌論文(著者3名)	藤田一郎・田中宏喜・谷川久(2001): 腹側視覚経路における両眼視差と面の情報処理. Vision 13, 2, 87-91. * 雑誌論文の場合、pp はつけない
Webからの引用	中央教育審議会(2016): 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について(答申) (平成28年12月) <a href="http://www.mext.go.jp/menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/">http://www.mext.go.jp/menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/...</a> (2021年6月3日アクセス)

## 書式 2: 教材教具に焦点を当てて

\* 特定の教材教具のよさを表現したい場合は書式 2 がお勧めです。

<1枚目>

教材教具名:○○○○○

教材の写真をここへ



所属・職：\*\*立○○特別支援学校教諭

氏名 ○○ ○○

<材料>サイズも明確に。

- ・
- ・
- ・

<作り方>

- ① . . . .
- ② . . . .

<作成上の留意点・購入情報>材料で特殊なものは、調達場所や値段を記入してください。

- ・
- ・

<2枚目以降>

1 教材製作の背景 この教材を製作した動機やその背景を書く。

2 ねらい : 「教材作成の背景」につながる「ねらい」を書く。

3 工夫点 : サイズ、色、形、提示の方法やタイミングなど。

#### 4 学習(支援)の経過

子どもの様子(記入すべき項目例)

① ○(A, B, C, D..)さん、(学校、学部、学年あるいは年齢, 性別)

② 医療や福祉の情報(診断名、合併症(てんかんなど)、手帳、受けている福祉サービス等)

③ プロフィール

<姿勢><移動運動><探索・操作><食事><排泄><生活習慣><コミュニケーション(理解言語・表出言語・要求表現・指示伝達手段)><社会性(対人志向性や社会的行動)><行動面の特徴><諸検査の結果>など。

③ 家庭環境や保護者の願い

\*ここまでを、□で囲む。

期間 : ○年○月~△年△月

形態 : 場所、頻度、時間、支援者と子どもの割合、他の学習との関係など。

内容 : 教示の方法、受信一発信の手段やほめるタイミングなど。

5 結果 事実を書く。感想や考えは「考察とまとめ」で書く。日常生活や周囲の大人の見方や指導方針が変わったら、そのことにも触れる。

6 考察とまとめ 「結果」に基づく気づきや解釈、強調したい点を書く。

7 文献 「書式1」の「6文献」参照。

#### —書き方のコツ—

1)常にテーマを意識して、テーマからはずれないように書く。

2)教材の特性だけでなく、提示やほめ方のタイミング、教材と子どもとの空間関係等を示す。

3)参考にしたい人が真似できるように、回数やサイズ等できるだけ具体的な情報を記載する。

4)状況を想像しにくい抽象表現は避ける(×寄り添う・理解する・心を込めて)

5)「かなり」「とても」「しっかり」「きちんと」等読み手によりイメージが異なる表現を避ける。

6)事実と感想をごちゃまぜに書かない。「結果」には事実を。「考察とまとめ」には執筆者の気づきや考え、解釈を書く。